

芦生演習林の木の花・木の实について

中根 勇雄・柴田 泰征

はじめに

芦生演習林は暖帯落葉樹林帯から温帯落葉樹林帯へ移行する地域にあり気候的には日本海型から太平洋型への移行帯に位置するため、植物種が多い。

近年自然への関心が高まり、植物に関する高度な質問が寄せられるようになってきているが、今後このような状況が進むことが予想される。こうしたことを踏まえて本報告では植物の木本を対象に、1973年から1990年の18年間にわたって中根が京都大学芦生演習林に在任中に調査したものを今回柴田とともに資料を整理し検討する。なお、この一連の調査では、866種が確認された。その内訳は木本植物252種、草本植物528種、羊歯植物86種であり、このうち今回報告するのは木本種についてである。

本論に先立ち芦生演習林勤務の歴代の教職員各位に感謝し、本稿のとりまとめに際して助言を賜った徳山試験地の柴田 昌三講師に厚くお礼申し上げます。

調査地の概況及び調査方法

調査は京都府北桑田郡美山町芦生にある京都大学農学部附属演習林芦生演習林でおこなった。同地域は由良川流域に位置し、面積は約4,200haある。このうち約半分は針広混交の天然林で残りは二次林と人工林になっている。

事務所構内（海拔356m）から最高峰の三国岳（海拔959m）までの全面積を調査対象とし、調査は毎月（冬期間は除く）第1日曜日と第3日曜日とした。花期（咲き始め）や花や種子（実）の色等は、木本植物全てを対象とした。場所により差が著しく、また判断は個人差があるものと考えられるが、すべて調査者の独断によった。

結果と考察

調査結果を季節を追って述べると以下のようなになる。春になるとネコヤナギがまず咲き始め、ヤナギ類、マンサク、スギ、ヒノキなどが次々と咲き始める。春から初夏にかけては花の多い時期となり、多くの樹木はこの時期に咲く。5月と6月に咲き始めるものは全体の70%をしめる。（表1）

（表3）色別にみると白色系が120種、48%、黄色系が93種、37%と全体の85%を占める。次いで紫色系、桃色系と続き赤色系、橙色系はわずかであった。

一方、種子（実）は、9月下旬から11月中旬の間が美しい。花とは異なり、美しい色が継続する期間が長く、葉の陰から美しい実がかいまみる姿には格別なものがある。色別の割合を見ると茶色系（黄褐色）が106種、42%と赤色系が62種、25%（表2）（表4）となり黒色系、紫色系、黄色系の順に続く。

（表1）木本、花期の季節別、色別表

月	白色	黄色	紫色	赤色	桃色	橙系	種類	%
3	5	6					11	4
4	11	9	5		2		27	11
5	47	33	4	2	5	1	92	37
6	37	33	8	3	1	2	84	33
7	13	11	1		2		27	11
8	3						3	1
9	1		3				4	1.5
10	3	1					4	1.5
計	120	93	21	5	10	3	252	100
%	48	37	8	2	4	1		100

（表2）木本の種子（実）の色別割合表

色別	種類	%	備考
茶色系	106	42	(黄褐色)
赤色系	62	25	
黒色系	50	20	
黄色系	14	5	
紫色系	20	8	
計	252	100	

